

專 門 基 礎 分 野

専門基礎分野（人体の構造と機能）

微生物学

開講時期	I	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		無	
科目目標	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を学び、臨床における活用を理解できる				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、 テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	微生物学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	微生物とは 細菌の性質	講義
2	2	真菌、原虫、ウイルスの性質（真菌感染症、原虫感染症）	講義
3	2	感染と感染に対する生体防御機構	講義
4	2	感染症の予防・診断・治療	講義
5	2	感染経路から見た感染症 ア）経口感染	講義
6	2	感染経路から見た感染症 イ）経気道感染	講義
7	2	感染経路から見た感染症 ウ）接触感染	講義
補講	2	院内感染（日和見感染）	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

病理学

開講時期	I	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 医師	
科目目標	病的状態を学び各疾患の病因・発生機序を形態学見地の基礎知識を理解できる				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	講義後復習をすること	テキスト	病理学 （医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1.病理学総論 1) 病理学で学ぶこと	講義

		2) 細胞・組織の損傷と修復, 炎症	
2	2	3) 免疫, 移植と再生医療 4) 感染症	講義
3	2	5) 循環障害 6) 代謝障害 7) 老化と死	講義
4	2	8) 先天異常と遺伝性疾患 9) 腫瘍 10) 生活習慣と環境因子による生体の障害	講義
5	2	2.病理学各論 1) 循環器系の疾患 2) 血液・造血器系の疾患 3) 呼吸器系の疾患	講義
6	2	4) 消化器系の疾患 5) 腎・泌尿器, 生殖器系および乳腺の疾患 6) 内分泌系の疾患	講義
7	2	7) 脳・神経・筋肉系の疾患 8) 骨・関節系の疾患 9) 眼・耳・皮膚の疾患	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能 I

開講時期	I	単位数	1	時間数	15 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		無	
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	講義前に教科書の該当部分に目を通し、講義後は教科書、プリント等を見直す	テキスト	生化学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
----	----	------	------

1	2	生化学を学ぶための基礎知識	講義
2	2	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義
3	2	糖質の構造と機能	講義
4	2	糖質代謝	講義
5	2	脂質の構造と機能	講義
6	2	脂質代謝	講義
7	2	タンパク質の構造と機能，タンパク質代謝	講義
補講	2	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義
補講	2	遺伝子と核酸，遺伝子の複製と組換え	講義
補講	2	転写，翻訳と翻訳後修飾	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅱ

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務経験 医師	
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリントは必ず復習で見直すこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	呼吸器系1：呼吸器系の構成	講義
2	2	呼吸器系2：呼吸運動、肺気量	講義
3	2	呼吸器系3：ガス交換と運搬、呼吸器系の調節	講義
4	2	血液の働き1：血液	講義
5	2	血液の働き2：血液凝固	講義
6	2	血液の循環とその調節1：循環器系の構成、心臓	講義
7	2	血液の循環とその調節2：血管系	講義
8	2	血液の循環とその調節3：心臓の活動	講義

9	2	血液の循環とその調節4：循環器系の調節	講義
10	2	内臓機能の調節1：外分泌と内分泌、ホルモン	講義
11	2	内臓機能の調節2：全身の内分泌腺1	講義
12	2	内臓機能の調節3：全身の内分泌腺2	講義
13	2	内臓機能の調節4：ホルモンの働きと調節機構	講義
14	2	内臓機能の調節4：自律神経	講義
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅲ

開講時期	I	単位数	1	時間数	15時間
教員名	非常勤講師	実務経験		有	
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	必ず復習を行うこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	口・咽頭・食道の構造と機能	講義
2	2	胃の構造と機能	講義
3	2	小腸の構造と機能	講義
4	2	大腸の構造と機能	講義
5	2	膵臓・肝臓・胆嚢および腹膜の構造と機能 ①	講義
6	2	膵臓・肝臓・胆嚢および腹膜の構造と機能 ②	講義
7	2	第2章のまとめ	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅳ

開講時期	I	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	非常勤講師	実務経験	有		
科目目標	1．基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2．健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	必ず復習を行うこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	腎臓の構造と機能 ①	講義
2	2	腎臓の構造と機能 ②	講義
3	2	排尿路	講義
4	2	体液の調節	講義
5	2	男性生殖器と女性生殖器	講義
6	2	受精と胎児の発生	講義
7	2	成長と老化	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅴ

開講時期	I	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		有 近畿大学医学部付属病院勤務 経験 医師	
科目目標	1. 体を支える骨や筋の名称を知り、骨と筋肉の連結、動きを理解し、重心の位置の移動を考え看護実践に役立てることを理解する。 2. 運動時の筋の役割。肩こり、腰痛、運動障害と関わる筋肉群を理解する。さらに、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				

評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	肢位について	講義
2	2	良肢位とは	講義
3	2	骨組織と筋組織	講義
4	2	骨の連結	講義
5	2	体幹 胸部・腹部・背部の骨格と筋	講義
6	2	体幹 頭部の骨格と筋	講義
7	2	上肢の骨格と筋	講義
8	2	下肢の骨格と筋	講義
9	2	骨格筋の運動	講義
10	2	筋肉の収縮、骨格筋、心筋	講義
11	2	肩こり、腰痛、パネ指等と関係する筋肉、腱	講義
12	2	皮膚の構造と機能、体温、水分調整	講義
13	2	生体の免疫機構	講義
14	2	視床下部の働き	講義
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能VI

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験		有 近畿大学医学部付属病院勤務 経験 医師	
科目目標	1. 人の神経機構が非常に多くの神経細胞とそれらをサポートする神経支持組織の細胞群からなり、それぞれの神経細胞がスマホのネットワークの如く張り巡らされていること、さらに、神経細胞のネットワークが他の諸臓器と密接な関連を有してことも理解する。 2. 中枢神経と末梢神経の違い、また、運動系と感覚系神経の違い、睡眠・夢、記憶等について理解することができる。				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直す	テキスト	解剖生理学（医学書院）		

	こと		講師作成資料
--	----	--	--------

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	神経系細胞の構造と機能	講義
2	2	中枢神経（脳と脊髄）- I	講義
3	2	中枢神経（脳と脊髄）- II	講義
4	2	中枢神経（脳と脊髄）- III	講義
5	2	末梢神経（脊髄神経）	講義
6	2	末梢神経（脳神経）	講義
7	2	末梢神経（自律神経系）	講義
8	2	運動機能と下行伝導路	講義
9	2	眼の構造と視覚	講義
10	2	耳の構造と聴覚・平衡覚	講義
11	2	味覚と嗅覚	講義
12	2	疼痛（痛み）	講義
13	2	脳の統合機能- I	講義
14	2	脳の統合機能- II	講義
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（人体の構造と機能）

看護形態機能学

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	専任教員	実務経験		有	
科目目標	1．生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義がわかる 2．どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているかわかる 3．日常生活援助につかえるからだの仕組みを理解する				
評価方法	筆記試験 7 0 点 演習（ルーブリック評価） 3 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	課題は次回講義までにすること	テキスト	解剖生理学（医学書院） 看護形態機能学（日本看護協会出版会） 人体の機能と構造Ⅰ～Ⅵ（講師資料） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	何のための生活行動か 1. 生きているとはどういうことか 2. 個体を外界から区別するもの－皮膚－ 3. 内部環境の恒常性 4. 生命維持と生活行動 恒常性維持のための物質の流通 1. 流通の媒体－血液－ 2. 流通路 3. 流通の原動力	講義
2	2	恒常性維持のための調整機構 1. 神経性調整 2. 液性調整 3. ストレスと恒常性維持	講義
3	2	動く 1. 姿勢 2. 神経から筋への指令と筋の収縮 3. 意図的でない運動－反射 4. 意図的な運動－随意運動 5. 骨格・骨格筋・関節 6. 日常生活での動き	講義・演習
4	2	食べる 1. 食欲 2. 食行動 3. 咀嚼し味わう 4. 飲み込む（嚥下） 5. 消化と吸収 6. 何をどれだけ食べるか 息をする 1. 息を吸う・息を吐く 2. ガス交換	講義・演習
5	2	トイレに行く 1. 排尿 2. 排便	講義・演習
6	2	話す・聞く 1. 声を出す 2. 聞く 3. 言葉	講義・演習

		眠る 1. 人はなぜ眠くなるのか 2. からだのリズム 3. 眠り 4. 睡眠の主観的評価	
7	2	お風呂に入る 1. 垢を落とす 2. 皮膚と付属物 3. 皮膚と粘膜 4. 温まる 子どもを生む 1. 男と女 2. 遺伝子組み換え 3. 性交と受精 4. 赤ちゃん 5. 生殖を支えるホルモン 6. 出産 外部環境とからだー人類誕生時の環境と今 1. 人類誕生のころ、覚醒している時間は何のための時間だったのか 2. 食べ物はいつでも手に入ったわけではなかった	講義・演習
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

栄養学

開講時期	I	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		無	
科目目標	1. 人間の生活と栄養について理解する 2. 健康の状態に応じた食事療法について理解する				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	栄養学（医学書院） 栄養食事療法（医学書院） 糖尿病食品交換表（日本糖尿病協会 分光堂）		

回数	時間	学習内容	授業方法
----	----	------	------

1	2	人間栄養学と看護	講義
2	2	栄養状態の評価・判定	講義
3	2	栄養素の種類とはたらき	講義
4	2	エネルギー代謝	講義
5	2	栄養素の消化・吸収	講義
6	2	栄養素の体内代謝	講義
7	2	栄養管理	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

薬理学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		有	
科目目標	薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	薬理学（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1. 薬理学を学ぶにあたって 1) 薬物による病気の治療 2) 薬理学とは何か	講義
2	2	2. 薬理学の基礎知識 1) 薬が作用する仕組み 2) 薬の体内挙動（薬物動態学） 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 薬物使用の有益性と危険性 6) 薬と法律	講義
3	2	3. 抗感染症薬 4. 抗がん剤	講義
4	2	5. 免疫治療薬 6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 7. 末梢での神経活動に作用する薬物	講義
5	2	8. 中枢神経系に作用する薬物 9. 循環器系に作用する薬物	講義

		10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	
6	2	11. 物質代謝に作用する薬物 12. 皮膚科用薬・眼科用薬 13. 救急の際に使用される薬物	講義
7	2	14. 漢方薬 15. 消毒薬 16. 輸液製剤・輸血剤 17. 看護業務に必要な薬の知識	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

薬理学各論

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 薬剤師	
科目目標	臨床における薬物治療の実際を学び、看護場面で活用するための知識を身につける				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	臨床薬理学（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	薬物治療の基礎 主要疾患の臨床薬理学 慢性腎臓病（CKD）・透析患者における薬剤管理	講義
2	2	全身状態の管理にかかわる臨床薬理学 栄養および水分管理に関わる薬剤の投与と調整 感染兆候があるものに対する薬物の臨時投与	講義
3	2	主要疾患の臨床薬理学 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	講義
4	2	主要疾患の臨床薬理学 高血圧症 抗血小板・抗凝固療法	講義
5	2	全身状態の管理にかかわる臨床薬理学 循環動態にかかわる持続点滴中の薬剤の投与と調整 術後ならびに呼吸管理にかかわる薬物の投与と調整	講義
6	2	対症療法薬の臨床薬理学 熱鎮痛薬 制吐薬	講義
7	2	対症療法薬の臨床薬理学	講義

		睡眠薬 主要疾患の臨床薬理学 脂質異常症	
8	2	主要疾患の臨床薬理学 骨粗鬆症 関節リウマチ	講義
9	2	主要疾患の臨床薬理学 糖尿病 特定の行為に関する臨床薬理学 インスリンの投与量の調整	講義
10	2	対症療法薬の臨床薬理学 便秘治療薬 下痢治療薬 鎮痛・去痰薬	講義

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

臨床検査学

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	15時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 臨床検査技師	
科目目標	1. 臨床検査とその役割について理解する 2. 臨床検査各論を学び、看護の場面で活用するための知識を身につける				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	臨床検査（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	臨床検査とその役割	講義
2	6	臨床検査の種類・目的	講義
3		臨床検査の活用の実際（おもな臨床検査）	
4		一般検査 血液学的検査 化学検査、血液ガス検査 免疫・血清学検査 内分泌学的検査 微生物学検査	
5	2	臨床検査の種類・目的 臨床検査の活用の実際（おもな臨床検査）	講義

		病理学的検査	
6 7	4	臨床検査の種類・目的 臨床検査の活用の実際（おもな臨床検査） 生体検査 生理機能検査：循環機能検査 呼吸機能検査 神経機能検査 画像検査 超音波検査 磁気共鳴画像（MR I）検査 サーモグラフィー 内視鏡検査	講義 演習
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論Ⅰ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 医師 近畿中央呼吸器センター 医師	
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 労災疾患等医学研究（3領域10テーマ）の基礎的知識を学ぶ 3. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、基本的な病態生理を復習して臨むこと テキストの序章・第1章を事前に読んでおくこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	成人看護学 循環器（医学書院） 成人看護学 呼吸器（医学書院） 成人看護学 内分泌・代謝（医学書院） 成人看護学 血液・造血機能（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1 2 3 4 5 6	12	『循環器疾患』 虚血性心疾患 血圧異常／業務過負荷による脳・心疾患 不整脈／弁膜症 心膜炎 ／心不全 心筋疾患 動脈の閉塞性疾患 心臓疾患の外科的治療	講義
7 8 9	8	『呼吸器疾患』 慢性閉塞性肺疾患 塵肺 石綿／結核／肺癌／呼吸器感染症 肺炎 肺血栓塞栓症 呼吸不全	講義

1 0			
1 1 1 2	4	『内分泌疾患』 視床下部・下垂体前葉系疾患 視床下部・下垂体後葉系疾患 ／甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患／膵・消化管神経内分泌腫瘍	講義
1 3	2	『代謝疾患』 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常	講義
1 4	2	『血液・造血器疾患』 赤血球系の異常 白血球系の異常 造血器腫瘍 出血性疾患	講義
1 5	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論Ⅱ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 医師	
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 労災疾患等医学研究（3領域10テーマ）の基礎的知識を学ぶ 3. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、基本的な病態生理を復習して臨むこと テキストの序章・第1章を事前に読んでおくこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	成人看護学 消化器（医学書院） 臨床外科看護学総論（医学書院） 臨床放射線医学（医学書院） 成人看護学 腎・泌尿器（医学書院） 成人看護学 女性生殖器（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1 2 3 4 5 6 7 8	1 6	『消化器疾患』 上部消化管の代表的疾患の外科的治療／下部消化管の代表的疾患の外科的治療 ／胆・膵・肝臓疾患の外科的治療①／胆・膵・肝臓疾患の外科的治療② ／消化器疾患の内視鏡的治療／胆・膵臓疾患の内科的治療 ／肝臓疾患の内科的治療（検査/慢性肝炎）／肝臓疾患の内科的治療（肝硬変/肝がん）	講義

9 10 11 12	8	『腎・泌尿器疾患』 腎不全 透析／腎炎 ネフローゼ症候群／尿路通過障害と機能障害 尿路結石症 ／尿路・性器の腫瘍	講義
13 14	4	『女性生殖器疾患』 外陰の疾患 膣の疾患 子宮の疾患 卵管の疾患 卵巣の疾患／乳房の疾患	講義
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論Ⅲ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 医師 堺市立総合医療センター 医師	
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 労災疾患等医学研究（3領域10テーマ）の基礎的知識を学ぶ 3. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、基本的な病態生理を復習して臨むこと テキストの序章・第1章を事前に読んでおくこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	成人看護学 脳・神経（医学書院） 成人看護学 運動器（医学書院） 成人看護学 皮膚（医学書院） 成人看護学 耳鼻咽喉（医学書院） 成人看護学 眼（医学書院） 成人看護学 歯・口腔（医学書院） 成人看護学 アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)		

回数	時間	学習内容	授業方法
1 2 3	6	『脳・神経疾患』 脳血管疾患の内科的治療／筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患 認知症 脳血管疾患の外科的治療	講義
4 5 6 7	8	『運動器疾患』 膝・股関節OA／四肢切断 骨折等の職業性外傷 ／脊椎の疾患 脊椎疾患および職業性外傷としての脊髄損傷／職業性腰痛症や頸肩腕症候群	講義

8	2	『皮膚疾患』 表在性皮膚疾患 アトピー性皮膚炎 物理化学的皮膚障害 熱傷	講義
9 1 0	4	『耳鼻咽喉疾患』 中耳炎 突発性難聴 騒音・電磁波等による感覚器障害 高・低温、気圧、放射線等の物理的因子による疾患 振動障害 産業中毒／咽頭炎 喉頭炎 咽頭がん 喉頭がん	講義
1 1	2	『眼疾患』 機能の障害 部位別の疾患 網膜・硝子体、水晶体、緑内障の疾患と手術	講義
1 2	2	『口腔疾患』 口腔・歯・歯周組織の疾患 口腔領域の悪性腫瘍	講義
1 3 1 4	4	『アレルギー・膠原病・感染症』 アレルギー 自己免疫疾患／H I V感染症と日和見感染症	講義
1 5	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論Ⅳ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 精神科クリニック勤務 医師 大阪労災病院勤務 医師	
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、 基本的な病態生理を復習して臨むこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 小児臨床看護各論 （医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1 2 3 4	8	1. 精神医学序論 * 精神医学・医療の考え方を知り、診断・治療の流れを概観する 2. 精神医療の歴史 3. 精神疾患の分類 1) 国際疾病分類（ICD－10） 2) 精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM－5） 4. 代表的精神疾患 1) 神経症性障害・人格障害 2) アルコール依存症・薬物依存 3) 児童青年期精神医学・子どもに多い精神疾患	講義

5	6	4. 代表的精神疾患	
6		4) 器質性精神障害、神経障害	5) てんかん
7		7) 気分障害	6) 統合失調症
		8) 認知症	
8	14	1. 小児悪性疾患（白血病、脳腫瘍）	
9		2. 染色体異常・先天異常（運動器・内臓器を含む）・先天代謝異常	
10		3. 新生児・乳児期の疾患（皮膚・消化器を含む）、小児の内分泌疾患、性腺・生殖器の異常	
11		4. 予防接種対象感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳、ジフテリア、破傷風、Hib、ポリオ、肺炎球菌、結核、ロタ腸炎、B型肝炎、日本脳炎、HPV、インフルエンザ）	
12		5. 小児にコモンな感染症（呼吸器、消化器、腎・泌尿器）、免疫不全	
13		6. 先天性心疾患・川崎病、腎炎・ネフローゼ症候群	
14		7. 小児の神経疾患（てんかん、その他の痙攣性疾患）、側弯症	
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

カウンセリング論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	15 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院治療就労両立 支援センター勤務	
科目目標	1. カウンセリングの基本的概念について説明することができる。 2. カウンセリング関係の特性について説明することができる。 3. カウンセリングの過程、実際のすすめ方について説明することができる。				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリントは 必ず復習で見直すこと	テキスト	講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	カウンセリングの概念	講義
2	2	カウンセリングの基礎理論・来談者中心療法について	講義・演習
3	2	カウンセリングにおける関係と援助者としての条件	講義・演習
4	2	カウンセリングの過程1	講義・演習
5	2	カウンセリングの過程2ー問題解決モデルによるカウンセリングの実際ー	講義・演習
6	2	カウンセリングの過程3ー問題解決モデルによるカウンセリングの実際ー	講義・演習
7	2	危機介入の概念と方法 医療におけるカウンセリングの意義と限界	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

勤労者医療概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	15 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院治療就労両立 支援センター勤務	
科目目標	勤労者医療を推進する労災病院の役割機能を理解し、役割を遂行するために必要な勤労者医療の概要を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	勤労者医療概論		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	独立行政法人労働者健康安全機構の役割	講義
2	2	労災病院の役割	講義
3	2	労働衛生（産業保健）の理解	講義
4	2	労働衛生行政	講義
5	2	勤労者を取り巻く課題と対策	講義
6	2	勤労者を取り巻く課題と対策	講義
7	2	労災病院における勤労者医療と看護	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

医療行政・関係法規

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験	無		
科目目標	1. 看護職者が法律を学ぶ意義について学ぶ 2. 生活者および勤労者が生涯を通して、健康や障害の状態に対応して活用できる社会資源について学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	ほぼ毎回単元別演習問題を実施します	テキスト	看護を学ぶための法規と社会保障制度（ふくろう出版）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	学習内容の概要、看護の国際性について	講義
2	2	看護を取り巻く社会の現況と看護の対象及び看護者の人生	講義
3	2	国家試験必出項目（重要な法改正）	講義
4	2	生命の始期・終期を考える（法と倫理の砦）	講義
5	2	看護行為の法的性格についての考察	講義
6	2	看護職・看護学生にとっての基本法	講義
7	2	現行法規総覧 衛生法規一覧	講義
8	2	保健衛生法規	講義
9	2	予防衛生法規	講義
10	2	医事関係法規	講義
11	2	薬事関係法規	講義
12	2	環境衛生法規（保健所の業務内容）	講義
13	2	公害関係法規（環境省の業務内容）	講義
14	2	労働関係法規 学校関係法規 終講試験対策	講義
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

社会福祉論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		無	
科目目標	チーム医療における社会福祉制度を学び、看護実践において活用していくための基礎的知識を習得する				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	ほぼ毎回単元別演習問題を実施します	テキスト	看護を学ぶための法規と社会保障制度 (ふくろう出版)		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	社会保障福祉の概要	講義
2	2	社会保険制度の概説	講義
3	2	公的扶助制度の概説	講義

4	2	社会福祉制度の概説（概説→児童福祉→母子福祉）	講義
5	2	社会福祉制度の概説（障害福祉→高齢者福祉）	講義
6	2	社会福祉制度の概説（被災者福祉→貧困者福祉→補遺） 医療関連手帳・記録	講義
7	2	医療・福祉に関連する施設一覧 過去問・出題予想問題（終講試験対策）	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

リハビリテーション論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 リハビリ技師	
科目目標	1. リハビリテーションの概念を理解し、生活者および勤労者の社会復帰支援とQOLを高める訓練の実際を学ぶ 2. 演習を通して、具体的な対象者の生活支援の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	リハビリテーション看護（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	リハビリテーション概論	講義
2	2	看護に適応できるリハビリテーション技術（ボディメカニクス・安楽な体位と体位変換）	講義・演習
3	2	看護に適応できるリハビリテーション技術（ボディメカニクス・移動動作の基本動作）	講義・演習
4	2	施設医療から地域医療における継続したリハビリテーション	講義
5	2	運動器疾患のリハビリテーション	講義
6	2	福祉用具・住環境整備・改修	講義
7	2	ADL・IADL 訓練と指導、FIM の付け方	講義
8	2	脳血管障害のリハビリテーション（住環境整備・改修含む）	講義
9	2	心大血管疾患のリハビリテーション	講義
10	2	呼吸器疾患のリハビリテーション	講義
11	2	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	講義
12	2	コミュニケーション障害のリハビリテーション（高次脳機能障害・構音障害・認知機能低下）	講義

		含む)	
13・14	4	早期リハビリテーション（急性期病床での離床促進/転倒予防）（実技：介助方法を中心に）	講義・演習
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

経営学

開講時期	IV	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	非常勤講師	実務経験		無	
科目目標	わが国における病院経営活動の基礎的知識を学ぶ				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	講義後復習をすること	テキスト	講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1.経営学とは	講義
2	2	2.医療取り巻く環境	講義
3	2	3.医療サービスと経営	講義
4	2	4.経営活動と看護管理 保健医療制度改革	講義
5	2	診療報酬制度改革	講義
6	2	看護職の経営参画	講義
7	2	コストパフォーマンスの視点	講義・演習
8	1	単位認定終講試験	